

# 令和2年第4回(12月)大郷町議会定例会一般質問通告書

## 目 録

1. 石垣 正博 議員
  - 1) 空き地・空き家対策を万全に
  
2. 大友 三男 議員
  - 1) 大郷町復興再生計画(事業)の進捗状況について
  - 2) 中粕川地区復興地域づくり計画の進捗状況について
  
3. 和賀 直義 議員
  - 1) インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行の備えについて
  - 2) 復興再生ビジョンについて
  
4. 千葉 勇治 議員
  - 1) 健やかな教育環境の向上を目指して
  - 2) 令和元年台風19号災害からの早期復旧・復興対策に対する取り組みについて
  - 3) 大郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証から学び、後継者対策にもっと本腰を
  
5. 石川 壽和 議員
  - 1) 内水被害対策について
  - 2) 心のケアハウスについて
  
6. 吉田 耕大 議員
  - 1) 自然災害対策と防災について
  - 2) 現地再建や移転希望者への支援について
  - 3) 今後の大郷町のPRについて

通 告 要 旨	備 考
<p><b>1. 空き地・空き家対策を万全に</b></p> <p>人口減少が進み、空き地・空き家が増加し問題となっている。2018年の住宅・土地統計調査によると全国の空き家の数は848万戸で、日本の住宅の約7軒に1軒の割合で空き家となっている。本町においても、世帯数は増えているものの人口減少に伴い空き家が多くなっていると考える。特に相続ができずに、そのままの状態に放置され、空き家化しているところも多い。今後、管理不十分な空き家は、適正な管理・利活用等を進め、どうしても危険な空き家は取り壊しなどの対策を考えて行く必要がある。</p> <p>本町における、空き地・空き家対策について伺う。</p> <p>(1) 町では、高齢化が進んでいることにより、空き地・空き家が増加することの対策として、空き地・空き家バンクを設置したと考える。空き地・空き家バンク設置後の実情はどうか。また、今後の対応を伺う。</p> <p>(2) 空き地・空き家バンクに登録していない物件も相当多くある。それらの物件に対し、町ではどのような方策を考えているか伺う。</p> <p>(3) 空き地・空き家は、色々の分野の問題解決が必要となる。復興定住推進課だけでは解決することは困難である。役場内の横断的な対応が必要であり、それに即した組織を設置するべきと考えるがどうか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>

通 告 要 旨	備 考
<p><b>1. 大郷町復興再生計画（事業）の進捗状況について</b></p> <p>令和元年10月13日の東日本台風による甚大な水害が発生してから1年以上が経過した。現時点での復興状況及び進捗状況について伺う。</p> <p>(1) 令和2年9月定例会で、町内被災者全員に意向・要望を個別に聞き取り調査を行い、対応すべきと指摘したが、「各地区に出向き意向を聞き話し合いを継続しながら、安全で住みやすい地域づくりを行いたい」との答弁があり、その後、被災各地の聞き取り調査を行ったと思うが、意向・要望調査結果及び中粕川地区を除く被災15地区の復興支援（防災・減災対策）など、どのような対応（対策）を行ったのか伺う。</p> <p>(2) 中村原地区の被災者移転地造成及び災害公営住宅建設計画の進捗状況や各種事業費はいくら（内訳）になるのか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>
<p><b>2. 中粕川地区復興地域づくり計画の進捗状況について</b></p> <p>(1) 令和2年6月29日、第4回臨時会開催前に、「災害復興推進本部会議で決定した」と議会に対し最終決定したかのような説明があったが、現在まで中粕川地区復興地域づくり計画が複数回変更されている。なぜ、中粕川地区の越流被害防護措置としての嵩上げ農道・空堀整備事業を取りやめることになったのか伺う。</p> <p>(2) 中粕川地区全体の防災・減災のための事業変更ではなく、区域整理エリア内だけの計画変更なのか。さらに変更に伴う事業費はいくら（内訳）になるのか伺う。</p> <p>(3) 10月24日に開催した議会と被災者の方々との懇談会の中で、エリア以外の家屋解体に伴い更地になった土地の買い上げ要望があった。区画整理エリア内と同じように、区画整理エリア以外（中粕川地区以外も含む）の土地買い上げや売買に伴う税及び残った宅地の固定資産税減免などについてどのように対応するのか伺う。</p>	

通 告 要 旨	備 考
<p><b>1. インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行の備えについて</b></p> <p>(1) 発熱患者の受け入れについて                      発熱患者を受け入れ、新型コロナウイルスの診療や検査ができる「診療・検査医療機関」は県内418施設を指定、県内施設の23%程度とのことである。希望者の殺到や風評被害の懸念から、ホームページ等での公表はされていない。黒川圏域に存在するのか、町民が安心できる情報提供を求める。</p> <p>(2) インフルエンザワクチンの接種率向上について                      9月の定例会、同僚議員の一般質問で児童生徒のインフルエンザワクチン接種支援に即答した町長答弁を評価する。9月以降の新型コロナウイルス感染状況は、より厳しくなっている。高齢者へもインフルエンザワクチン接種の啓発と支援の拡充が必要と考えるが所見を伺う。</p> <p>(3) 避難所の新型コロナウイルス対策運営マニュアルの作成と周知徹底について                      災害発生時は迅速な対応が求められる。10月18日の総合防災訓練で避難所の簡易間仕切り組み立てを拝見したが、習熟度・作業スピード等差異が目立ったとの声があった。避難所の新型コロナウイルス対策運営マニュアルの作成とその周知徹底の計画について伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>
<p><b>2. 復興再生ビジョンについて</b></p> <p>中粕川地区の復興まちづくりは具体的計画が進められている。被害の大きかった他地域の計画について伺う。</p> <p>(1) 避難・水位予測情報等を共有するため、地区内各戸へ情報端末(タブレット)配置などを含めて検討すると載っているが、その検討状況は。</p> <p>(2) 鶉崎(袋)地区の計画は。</p> <p>(3) 土手崎・三十丁地区の計画は。</p>	

通 告 要 旨	備 考
<p><b>1. 健やかな教育環境の向上を目指して</b></p> <p>(1) 30人学級の早期実現に対する町の取り組み状況について                      長期化するであろう新型コロナウイルス対策の観点から、三密を避ける教育環境の整備が急がれている。教育に力を入れている本町にとって率先して取り組むべき課題と考える。町としてどのような取り組み計画が検討されているのか伺う。</p> <p>(2) スクールバスの乗降所までの通学距離が長い児童の送迎について                      子ども・父兄の両者への負担の軽減を求める声が出され始めて久しい。町内全域にわたり住みよいまちづくりに力を入れている本町の教育指針の中で、早急にその解決を願い、これらの児童らに対する解消策について、その後教育委員会はどのように検討されているのか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>
<p><b>2. 令和元年台風19号災害からの早期復旧・復興対策に対する取り組みについて</b></p> <p>(1) 吉田川決壊に伴い大被害を受けた中粕川地区内の早期復旧・復興に対する町の取り組み計画について、町は住民の要求に添うためということで、計画の変更が著しい。10月14日付の河北新報朝刊には、これまでの空堀計画から、中粕川地区周辺の堤防を60cm嵩上げし、片側1車線の堤防兼用道路を粕川大橋から石原「行井堂」までの1.7kmにわたり整備し、堤防の幅も現在の2倍に広げる計画が掲載されており、大幅な計画変更が紙面から知ることができた。このように二転三転する町の復興計画だが、その最終計画はいつまでに固める方針なのか伺う。</p> <p>(2) 堤防が強靱化されたことで、これまで堤防沿いに計画されていた嵩上げ農道（空堀）は取りやめる方針とのことだ。しかし60cm嵩上げされることにより、当然のことながら中粕川地区以外の吉田川周辺で暮らす町民からは、「堤防全体の嵩上げを」の声が出されている。その対処方法について町はどのように国に求めていく考えか伺う。</p> <p>(3) 住宅建設予定地への「嵩上げ費用」やそれに伴う「町道の嵩上げ費用」、防災緩衝緑地事業に対する「用地取得費用」が国の補助事業対象になるのかどうか伺う。</p>	

### 3. 大郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証から学び、後継者対策にもっと本腰を

11月12日に、まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証結果について、まちづくり政策課よりまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議での意見や評価について報告があり、意見を交わす機会が持たれた。その中で特に本町の基幹産業である農業について、「就農支援事業」の事業目的である、「新たに町内に居住見込みの女性新規就農者及びその女性新規就農者を雇用する法人を支援することで、女性就農者の確保、農業所得の向上、移住・定住を促進する」事業実績が数年連続ゼロの状況である。そこで次の件について伺う。

- (1) この中で、本町における男女を問わず新規就農者の過去5年間の数値を示されたい。(個人・法人毎に)
- (2) 特に本町農業の中心的役割を担っている法人の後継者不足は深刻である。本町の農業法人組織数と、構成年齢の実態について伺う。
- (3) 一向に前進が見られない農業後継者対策について、新規就農者に対する町独自の給与支援等を行い、一定期間(3~5年)安心して就農できる環境づくりを行うなど早急な対策が求められている。このことに対する見解も含め、町が考えている後継者対策の具体的内容についての考えを伺う。

通 告 要 旨	備 考
<p><b>1. 内水被害対策について</b></p> <p>3月定例会での一般質問で「内水被害対策を」に対する答弁の中で、「町が管理する普通河川でも対象となる緊急浚渫推進事業を活用して対応する」とのことだった。次の点を伺う。</p> <p>(1) 大松沢の農業法人、イグナルファームと東北アグリヒトのハウスの損壊も内水による鶴田川、新堀川の越流や氾濫によるものと思われる。その後の対応を伺う。</p> <p>(2) 昨年の台風 19 号時における大松沢上村地区の各ソーラー施設の調整池の機能は十分に果たされていたのか。また、検証をされたのか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>
<p><b>2. 心のケアハウスについて</b></p> <p>本年5月に開所された子どもの心のケアハウス『とらいあんぐる』について以下の点を伺う。</p> <p>(1) これまでの利用状況を伺う。</p> <p>(2) 教育機会確保法が施行されたが、不登校児童生徒への対応策に変化はあるのか伺う。</p>	

通 告 要 旨	備 考
<p><b>1. 自然災害対策と防災について</b></p> <p>(1) 自然災害もいろいろな種類があり、すべてを網羅した安全対策マニュアル・防災ハザードマップの作成を早急に作成すべきと考えるが所見を伺う。</p> <p>(2) 大郷町総合防災訓練が行われたが、これからも住民の皆様が訓練を行い、いかなる災害にも対応できるようにもっと回数を増やせないのか伺う。</p>	<p>一問一答方式</p>
<p><b>2. 現地再建や移転希望者への支援について</b></p> <p>(1) 中粕川地域に住まわれている方の土盛りや内水対策の補助についてどこまでできるのか伺う。</p> <p>(2) 仮設住宅に住まわれている方の移転までの期間は、しっかりと保証できるのか伺う。</p> <p>(3) 被災者への心のケアはしっかりできているのか伺う。</p>	
<p><b>3. 今後の大郷町のPRについて</b></p> <p>(1) 道の駅おおさとに、ぜひ大郷町が出している子育て支援や定住促進の補助事業や観光・祭り事等を教えていただけるコンシェルジュを1名配置する考えはないのか伺う。</p>	